



江南の子

令和4年度
第10号

“積小為大”の心得～「跳躍の年」を迎えて

校長 藤井 正人

令和5年は卯年。この干支にあやかって「跳躍の年」と期待されています。今月の全校朝会で、跳躍＝ジャンプには大と小があることを話しました。大きいジャンプは、新しいことに挑戦すること、または叶えたい夢や目標をもつこと。小さいジャンプは、日常の中で心掛ければできる取組のこと。この2つのジャンプを組み合わせよう。

以下に、5年生が立てた「新年のめあて」を3つほど紹介します。

- ホームランが打てる強いバッティングがしたい。そのために腰の振りや体作りをしたい。体幹トレーニングをしたり、素振りを1日に50回を6セット300回します。
- 6年生になるまでに算数の問題がすらすら解けるようになりたい。そのために1日30分から50分自学をしたい。復習を中心とした自学をする。
- 自分からお手伝いする人になりたい。そのために、自分からお手伝いを見付けたり、やることを聞いたりします。「何かやることない？」と聞いて、あったらすぐに取りかかります

まず、今年中になりたい自分の姿を定める（大きいジャンプ）。次に、そのために必要な具体的な取組を決める（小さいジャンプ）。2つをうまく組み合わせて「新年のめあて」が立てられていることに感心しました。毎日の小さいジャンプを積み重ねて、「になりたい自分」に向かって大きくジャンプをしてくれることを願わずにはいられません。

実は、「小さな取組を積み重ねること」の大切さについては、これまでの全校朝会でも度々話してきました。例えば昨年10月は、元大リーガーイチロー選手が、米国のある一人の野球少年の質問「どうしたらイチロー選手みたいに夢が叶えられるのですか？」に対して答えた、次の言葉を紹介しました。

「夢を叶える方法はたった1つしかないよ。それは、小さなことを積み重ねることだよ。」

昨年5月に公開された『大河への道』という映画があります。この映画は、千葉県香取市役所総務課主任（演：中井貴一）が、地元の偉人である「伊能忠敬」をなんとかNHK大河ドラマの主人公にしようと企画し、奮闘する（結局は断念する）姿を描いています。

伊能忠敬は、ご存知の通り、江戸時代後期に日本初の実測地図「大日本沿海輿地図」を作成した人物です。55歳から地図作り（実際に歩いて計測する作業）を始め、根気と執念で日本全土を測量すること17年。歩いた距離はなんと地球一周分。科学技術も人工衛星もない時代における実測地図作りは、気の遠くなるような、まさに「小さなこと（一歩）の積み重ね」と言えます。映画を観て、その偉大さに改めて感銘を受けました。

イチロー選手と伊能忠敬。この2人の生き様から、“積小為大”（小を積んで大と為す）は、時空を超えた普遍の心得であることが分かります。子どもたちには、この心得をこれからの人生においてしっかりともち続けてほしいと、新年にあたり切に願っております。

